

外国人市民のための
日本語能力向上支援事業
(令和6年度) 実施報告書

令和7年(2025年)3月 (公財)広島平和文化センター 国際市民交流課

外国人市民のための日本語能力向上事業（令和6年度）実績

国は、令和元年度に制定した「日本語教育の推進に関する法律」において「地域の状況に応じた日本語教育施策の策定・実施」を地方公共団体の責務とし、その財政支援として「文化芸術振興費補助金（地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業）」を創設した。

このため、広島市は、同補助金を活用して日本語能力向上支援事業に本格的に取り組むこととし、広島平和文化センターは、広島市からの受託により令和2年度からこれに取り組んでおり、令和6年度には以下の事業を実施した。

外国人市民のための日本語能力向上支援事業

- 1 日本語教育コーディネーターの配置
- 2 入門レベル日本語講座
- 3 日本語教育関連事業
 - (1) 「やさしい日本語」連続講座
：やさしい日本語で学び合う地域の暮らし・防災
 - (2) 多文化共生講師の養成と公民館等への紹介
 - (3) 広島市日本語教室ネットワーク会議
：地域日本語教室間の情報交換、ネットワーク化
- 4 日本語ボランティア養成講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 5 ボランティア日本語教室立ち上げ時の支援
- 6 企業における日本語教育の普及促進
- 7 日本語の少人数指導
：ウクライナ避難民向け
- 8 その他の取組み
 - (1) SNSによる広報
 - (2) 図書の貸し出し・蔵書の充実
- 9 令和6年度の総括と今後の取組

1 日本語教育コーディネーターの配置

広島市の日本語教育推進に係る体制づくりの取組の一つとして、日本語教育総括コーディネーター1名（橋本優香氏）と、日本語教育地域コーディネーター2名（上森美奈氏、久保田みゆき氏）を配置した。当センターの日本語教育に関する事業を企画するとともに、この事業の一助とし広島市の日本語教育の環境を向上させるために、ボランティア日本語教室（西区、佐伯区、安佐北区、安芸区の日本語教室：9か所）や企業の視察、聞き取りを行った。

2 入門レベル日本語講座

◆ 日 時：（春期）令和6年5月9日～7月25日（毎週月・木曜日）

（秋期）令和6年10月1日～12月17日（毎週火・金曜日）

◆ 場 所：広島国際会議場 3階研修室

◆ 回 数：春期22回、秋期22回（各回2時間）

◆ 講 師：福永尚子氏（広島YMCA専門学校）、菅川裕希氏（比治山大学）

◆ 参加者：（春期）14名（中国4、インド2、フィリピン1、バングラデシュ1、韓国1、ネパール1、タイ1、メキシコ1、チリ1、ペルー1）

（秋期）10名（中国5、イラン2、韓国1、ウクライナ1、パキスタン1）

初めて日本語を学ぶ外国人市民向けに、ひらがな・カタカナや基礎的な会話など入門レベルの日本語講座を実施した。「日本語教育の参照枠」Can-do（ヨーロッパ言語共通参照枠を参考に開発され、「日本語で何がどれだけできるか」の課題遂行能力の獲得を重視する）に則した授業内容を提供し、日本での日常生活に必要な日本語（特に口頭運用）の力をつけることを目指した。また、学習者がボランティア講師から支援を受けられるレベルの日本語能力を身に付け、地域の日本語教室へ橋渡しすることも目的とした。

学習内容を定着させるとともに、受講者が日本に興味と親しみを持ち、日本人市民と共通の話題を持つことでコミュニケーションが促進されるよう、広島にちなんだ日本文化を体験する課外学習（書道体験、茶道体験）を取り入れた。

この教室には日本語ボランティア養成講座の受講者もサポーターとして参加した。外国人受講者だけでなく、サポーターへの指導を両立できるよう、日本語教師としての実績のみならず、教師養成経験や地域の日本語教室運営経験がある講師を起用した（サポーター活動の詳細は日本語ボランティア養成講座の項目に記載）。受講生と比較してサポーターの欠席率が高く、活動内容によってはサポーターが足りない回もあった。双方にとって適当な人数の調整が課題である。

講座終了後のアンケートでは、授業がとても生活の役に立ったので、終了後も授業を続けてほしいという要望が挙がり、継続的な学習機会のニーズにどのように対応するか検討が必要である。

授業内容（概要）

回	内容	回	内容	回	内容
1	オリエンテーション	9	時間 ひらがな	17	ほしいもの カタカナ
2	自己紹介 ひらがな	10	スケジュール ひらがな	18	買い物 カタカナ
3	家族紹介 ひらがな	11	趣味 ひらがな	19	活動③買物体験
4	好き・嫌い ひらがな	12	活動②書道体験	20	感想を述べる カタカナ
5	料理・店 ひらがな	13	誘う カタカナ	21	希望を述べる カタカナ
6	活動①茶道体験	14	交通手段 カタカナ	22	活動④交流会
7	家 ひらがな	15	地図 カタカナ		
8	部屋にあるもの ひらがな	16	復習 カタカナ		

3 日本語教育関連事業

(1) 「やさしい日本語」連続講座 やさしい日本語で学び合う地域の暮らし・防災

- ◆ 日 時：（夏期）令和6年 ①8月25日 ②9月1日 ③9月8日（各回日曜日）
（冬期）令和7年 ①1月24日 ②1月31日 ③2月7日（各回金曜日）
- ◆ 場 所：（夏期）広島国際会議場 3階研修室
（冬期）第1回：広島国際会議場 3階研修室
第2回、第3回：ウェルテック専門学校広島校
- ◆ 参加者：（夏期）第1回：日本人13名、外国人1名 第2回：日本人12名、外国人12名
第3回：日本人11名、外国人6名
（冬期）第1回：日本人25名 第2回：日本人21名、外国人25名、
第3回：日本人18名、外国人26名
- ◆ 内容と講師 ①ひろしま国際センター 犬飼康弘氏 【「やさしい日本語」とは何か、その使い方】
②日本語教育コーディネーター 橋本優香氏 【地域のルール：ゴミ出しを題材とした外国人と日本人による「やさしい日本語」の練習】
広島市環境局職員（夏期のみ）
③広島大学大学院 小口悠紀子氏（夏期）【防災について共に考えるワークショップ】
広島大学大学院 道法愛氏（冬期）【防災について共に考えるワークショップ】

平易で外国人市民にもわかりやすい日本語でコミュニケーションをとる方法を学び、日本人市民と外国人市民とのコミュニケーション促進の一助とするため、「やさしい日本語」講座を開催した。

冬期の第2回、第3回はウェルテック専門学校広島校で実施し、留学生にも参加してもらった。日本語を学習中の方々と交流しながらやさしい日本語を実践する機会となり、「外国人市民がとても身近にすることが分かった。」「もっと接点がたくさんあれば良いのと思う」という感想が挙がった。参加者は、日本人同士が普段使うような日本語でのコミュニケーションが外国人市民にとっては難しく、「やさしい日本語」が重要であることを実感するとともに、自分の生活圏で暮らす外国人市民を想像し、関心を持つきっかけにもなったと考える。また、ゴミの分別や防災は、広島で長く暮らす人にとっても不慣れで知らないことが多々あり、一方向のコミュニケーションでなく、日本人と外国人市民が学び合う、助け合うことの大切さを学んでもらう機会となった。

(2) 多文化共生講師の養成・登録、地域での国際理解講座への講師紹介

① 日本語で伝える 外国人による多文化共生講師養成講座

◆日 時 ①令和6年6月2日(日) 15:00~17:00

②令和6年6月16日(日) 15:00~17:00

③令和6年6月30日(日) 15:00~17:00

◆場 所 広島国際会議場 研修室

◆講 師 ひろしまグローバルプラットフォーム「ソトカラ」 代表 濱長真紀氏

◆参加者 ①6名、②5名、③5名

外国人市民の日本語能力の向上及び多文化共生事業の推進を目的に、外国人市民が公民館等で実施される国際理解講座等で講師として活動できるよう、日本語によるプレゼンテーション資料の作成と口頭発表能力の向上を目的として研修会を開催した。研修内容は母国の歴史・文化・風俗・習慣の紹介や日本との比較について話す20分程度のプレゼン作成とした。1回目はネタの掘り起こし、2回目はプレゼン資料作成、3回目は模擬発表を行った。模擬発表はこの事業に関心を持つ市民が聴講し、好評を得た。養成講座修了者(5名)を多文化共生講師の人材バンクに登録し、下半期から、国際理解講座を主催する公民館等に講師として紹介した。

② 地域での国際理解講座への講師紹介

◆回 数 13回

◆紹介先 中央公民館(中区)、古市公民館(安佐南区)、五月が丘公民館(佐伯区)、いきいきプラザ(西区)、祇園西公民館(安佐南区)、沼田公民館(安佐南区)、広島市ろうあ協会(東区)、二葉公民館(東区)、舟入公民館(中区)、広島市子ども図書館(中区)、牛田公民館(東区)

※2回実施:仁保公民館(南区)

広島に住む外国人市民が自らの経験を語りながら体験型の講座を行うことで、日本人市民の多文化共生への理解の一助となった。

③ Have a Chat! での講師代行

当センターは市民の国際理解の増進を目的にHave a Chat!(対話事業)を長年実施してきたが、担当する国際交流専門員(国際交流員)が欠員であった令和5年9月より、多文化共生講師が代わりに母国を紹介する講座を行ってきた。参加者から大変好評であり、令和6年8月に国際交流員が着任後

も不定期で多文化共生講師が講座を行うこととし、令和6年度は9回実施し、延べ数でオンライン40名、対面78名の市民が参加した。

(3) 広島市日本語教室ネットワーク会議

◆日 時 ①令和6年6月23日(日) 14:00~16:00

②令和7年2月4日(火) 14:00~15:30

◆場 所 広島国際会議場 3階研修室

◆内 容 ①日本語ボランティアスキルアップ講座「学習者の誤用から考える日本語文法」

講師：広島大学名誉教授 白川博之氏

②当センターからの日本語教育に関する情報提供、参加教室同士の情報交換

◆参加者 ①51名、②25名

1回目は、日本語教室のボランティアから「文法の教え方を学びたい」という要望があり、スキルアップ講座を実施した。参加者からは、「今回のような学習者が必要としている日本語指導、実践に活用できる講座を今後も行ってほしい。」という声が挙がり、満足度の高い講座であった。

2回目は、ボランティア日本語教室の活性化を図り、互いに連携協力できる関係づくりを進めるため、ボランティア日本語教室で活動するボランティアが自由に意見・情報交換できる場を提供した。

4 日本語ボランティア養成講座

◆日 時・回 数 コースⅠ 5回 (令和6年9月27日~10月25日の金曜日)

コースⅡ 7回 (令和6年5月16日~6月27日の木曜日)

コースⅢ 7回 (令和6年5月13日~6月24日の月曜日)

※各コースとも1回90分

◆場 所 広島国際会議場 3階研修室

◆講 師 福永尚子氏、柳坪幸佳氏、石川裕大氏、末田朝子氏、(広島YMCA専門学校)

◆参加者 コースⅠ 23名、コースⅡ 21名、コースⅢ 11名

令和6年度も例年どおり、日本語ボランティアとして活動を始めたい市民と既に活動している市民のニーズにきめ細かく応え、日本語教育に地域で参画する市民の能力・資質・モチベーションの向上につながるよう、3コースに分けて実施した。コースⅠは、外国人学習者に初めて接する初心者向けとし、ボランティア参加者の裾野を広げるよう努めた。コースⅡ・Ⅲは経験者向けとし、日本語の教え方のスキルアップを図った。

本講座の受講者は先述の入門レベル日本語講座にサポーターとして参加し、教師の教え方を観察する、やさしい日本語で学習者と話すよう心がけるなどして外国人市民に日本語を教える環境に慣れることで、本講座受講後に地域日本語教室においてボランティア活動を始める心理的ハードルを下げることができた。また、経験者には日ごろの活動を振り返ってもらうことができた。

講座終了後のアンケートでは、「ボランティアの具体的なイメージを持つことができた」、「ボランティアとしての心構えを知り、日本語や学習者について考える機会になった」という前向きな感想が多く挙げられた。

5 地域日本語教室立ち上げ時等の支援

- ① 市民が新たにボランティア日本語教室を立ち上げようとする際に、日本語教育コーディネーターと本事業担当者により支援を行った。具体的には、団体運営に関する助言、広報活動への協力、教材の貸出し等を実施した。
- ② ボランティア養成講座修了生が市内公民館で令和6年5月に立ち上げた地域日本語教室の相談及び調整補助
- ③ 日本文化を通じた交流事業
 - ◆ 日 時：令和6年8月24日(土)
 - ◆ 場 所：竹屋公民館 実習室
 - ◆ 内 容：世界の人たちと一緒に「藍染ワークショップ」
 - ◆ 参加者：18名

今年度新たに立ち上がったボランティア日本語教室の開催場所で行い、教室の周知を兼ねて日本文化に慣れ親しみながら交流する場を設けた。夏休みの工作の機会を兼ねた人気の高い講座となり、多くの親子連れが参加した。外国人参加者からは、普段接することのない日本人とコミュニケーションをとりながら作業ができたという感想があり、地域での交流の機会をつくることができた。

6 企業における日本語教育の普及促進

年間常設のサービスとして外国人従業員とのコミュニケーションに関する相談を広島市にほんごデスク（日本語教育コーディネーター）で受けており、企業から企業内日本語教室開催の依頼があった（1社）。日本語教育総括コーディネーターと日本語教育地域コーディネーターが企業のニーズを聞き取り、プランを提示した後、全4回の日本語教室を実施した。

7 ウクライナ避難民への少人数日本語個別指導

- ◆日 時 受講者の都合に合わせて調整（1世帯40時間）
- ◆場 所 広島国際会議場 3階研修室
- ◆参加者 1世帯1名

広島市に滞在しているウクライナ避難民が早期に自立した生活を行うことができるよう、世帯単位の少人数指導を行った。来日後に入門レベル日本語教室に参加した後、復習を兼ねて母語を介して学びなおす機会とし、日本語学習だけでなく日本で生活するうえでの疑問に母語で答えてもらう、生活支援の場としての機能も持たせた。

8 その他の取組（通年）

(1) SNSによる広報

- ① 「広島市にほんごデスク」のFacebookを通して広報、情報提供を行った。



QRコード読み取り、もしくは<https://www.facebook.com/hiroshima.nihongo/>アクセスで詳細を表示

- ・ 投稿回数 28 回（令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月）
- ・ 内容：日本語教育向上支援事業で実施する催しの広報・実施レポート、「やさしい日本語」及び多言語化した生活情報、ボランティア日本語教室に関する情報、地域で開催されるイベント情報等。

② 地域で活動する日本語ボランティアのための LINE オープンチャット運営

- ・ 日本語ボランティアが活用できる当センターの日本語教育の取組み等について情報（新しい図書の配架のお知らせなど）を届けた。チャットグループに参加している日本語ボランティアからも、近況やイベント情報が投稿され情報交換が活性化した。なお、参加者同士が互いの個人情報にはアクセスできないオープンチャットという機能を用いている。

(2) 図書の貸出し・蔵書の充実

令和 6 年度に新たに 78 冊の日本語教育関連書籍を購入し、ボランティア日本語教室への貸出し用に配架した。書籍の選定に当たっては、日本語教育総括コーディネーターが書籍の内容や広島市の外国人学習者のニーズを考慮した。

10 令和 6 年度の総括と今後の取組

- ・ 令和 6 年度は日本語教育コーディネーターを総括コーディネーター 1 名、地域コーディネーター 2 名の 3 名体制とし、市郊外に位置する日本語教室 9 教室を訪問することができた。教室の状況を把握し、ボランティアスタッフの困りごとへの対応やイベントの調整をコーディネーターが行うことで、ボランティアスタッフの負担軽減と外国人市民に対するきめ細やかな日本語学習及び生活支援に繋がった。今後は、コーディネーターを通じて日本語教育機関や行政機関との連携を密にし、外国人市民が各自の生活状況やライフステージに応じて必要な日本語学習の情報や機会を得られる環境づくりを目指す。
- ・ 日本語教室については、通年で受講の問い合わせがあり、当センターで日本語教育について情報を得て、サポートを受けられることが徐々に知られてきていると感じる。受講生や修了生を通して外国人市民のコミュニティの状況や、生活ニーズを知ることができ、日本語教育から総合的な生活支援に繋げていく必要がある。
- ・ 第 1 回広島市日本語教育ネットワーク会議で日本語ボランティアスキルアップ講座を行ったところ、参加者の満足度が高く、令和 7 年度は事業の 1 つとして実施する。ボランティア日本語教室では、ボランティアの人材不足が課題としてあるため、ボランティアのニーズを汲みながらスキルアップできる場を提供したい。スキルアップ講座が、現在ボランティアとして活動している人のモチベーション維持や、日本語ボランティア養成講座受講後に活動に踏み切れない人へのサポートとなることを期待する。
- ・ 広島市が開催した日本語教育総合調整会議で出た意見を、ボランティア日本語教室の質の維持向上に向けた検討材料とすることができた。
- ・ SNS に関して、約 710 人のフォロワー（前年比約+80 人）を獲得しており、外国人市民や関心を持つ広島市民に情報が届くようになってきた。